

SSPEウイルス阻害物質の探索と同定

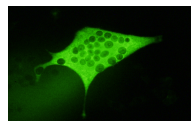
研究分担者： 神戸大学大学院保健学研究科ワクチン創薬研究開発講座 堀田博

SSPEウイルス感染培養細胞



- ・FDA承認医薬品(約800種類)
- ・薬用植物エキス(約150種類)・各分画

細胞融合の阻害の有無を判定



活性物質の探索・同定



活性物質の50%阻害濃度(IC₅₀)及び50%細胞障害濃度(CC₅₀)の測定



作用機序の検討及び作用機序に基づく候補物質の選定



SSPEウイルス阻害薬候補として、FDA既承認薬であるゲミフロキサシン(フルオロキノロン系抗菌薬)、マラビロク(HIV治療薬)、麻黄湯を選定

解説

1. FDA既承認医薬品であるゲミフロキサシン(フルオロキノロン系抗菌薬)およびマラビロク(HIV治療薬)がSSPEウイルス阻害薬として有用である可能性を示した。
2. インフルエンザに有効とされる漢方薬製剤「麻黄湯」に含まれる麻黄の分画がSSPEウイルス阻害作用を有することを示した。